

## 石井方式の発見のキッカケ

終戦直後、わたしは、高等学校で、英語を担当していたことがあります。そのとき、数人のアメリカ人と親しく交際する機会をもったのですが、かれらの書く文章に、意外なくらい、つづりに誤りのあることを知りました。

やはり、そのころ、まだ三つにもならない長男が、漢字を読む事実を、わたしは発見しました。ある日、わたしの読んでいる「国語教育論」という本の「教育」という字を指して、キョウ、イク」と、読んだのです。わたしはそのとき思わず自分の耳を疑ったほど驚きました。

でも、どうして、三つの子が、「教育」という字を読んだのでしょうか。調べてみますと、その一か月ほど前に、「教育音楽」という本の書名を指して、しきりに、なにかと、妻に尋ねたことがあった、ということがわかりました。妻は、そのとき、なにげなく、「キョウイクオンガク」と読んでやったそうです。この字を、三歳の子に教えてやったとすれば、それはただそれだけのことであり、そのときだけのことだったのです。

しかし、子どもは、ただ一回だけの機会に「教育」という字形が、「キ

ョウイク」という音を表わすものであることを覚えたのです。

## 山と mountain とどちらがむずかしい

わたしはこのとき、漢字の字形の複雑さは、漢字を覚えるために、なんのさまたげにもならないのではないかと、いうことを直感しました。それと、英語のつづりの複雑さを思い合わせて、「日本の国語教育は、まちがったことをしているのではないかと、ふと思ったのです。「山・川・花・月……」と、「mountain、river、flower、moon……」とを比べてみると、漢字のほうがむずかしいといえる理由が、いったいどこにあるだろうか。かれらが、一年生から、「mountain、river……」を学んでいるなら、わが国でも、一年生が、「山・川……」を学んでよいのではなかろうか。……こんな疑問がわいたのです。